

裸玉 全作品 ( 発表日順 玉位置・持駒順 )

「おもちゃ箱

No.	初出	作者	玉位置	持駒	手数	完/不	解 掲 載	番号	備 考
001	1707 *	綱目	小原大介	6 2 玉	飛2金	15手	×駒余	綱目	42(1) *宝永4.6 **綱目 巻四-6番 途中裸玉(原図飛角図式4手目で本図)
002	1755 *	函巧	伊藤看寿	1 1 玉	飛金2銀	31手	×余詰	函巧	11(7) *宝暦5.3 **函巧98番 準完全作として扱うことがある
003	1841 *	風流図式	糸原	7 2 玉	飛金3銀3	27手	×余詰	なし	32(2) *天保12 **風流12番 途中裸玉(原図6手目で本図) 堅山道助「1981年詰バラに投稿したが余詰で返送された」(詰バラ2001.1) M244
004	1877 *	將棊貫珠	河村古僊	5 1 玉	飛角金銀桂	21手	×余詰	貫珠(下) p1	51(5) *明治10.7 **貫珠1番
005	1905 *	**	松本朋雅	3 1 玉	飛角金銀桂	13手	×余詰	** 1905.1.22	31(2) *明治38.1.15 **東京二六新聞(將棋萬象1番) No.4の二列ずらし
006	1928.12	**	橋本	6 2 玉	飛2金	15手	×駒余	** p91	42(1) **詰將棋とハメ手の研究44図 No.1と同図 発表図の持駒に歩あるは誤植
007	1932.9	將棋研究	相馬駒二	1 1 玉	飛角金桂	19手	×余詰	研究 1932.12 p68	11(5)
008	1942.9	將棋月報	岡田秋葭	8 1 玉	飛2金歩	35手	◎	月報 1942.9 p109	21b
009	1949.5	將棋世界	清水孝晏	9 9 玉	飛2角金2	15手	×余詰	世界 1949.7 p39	19(3) No.10の作意順で余詰
010	1951.9	詰バラ	千葉勝美	9 9 玉	飛2角金2	13手	×余詰	詰バラ 1951.12 p21	19(3) No.9と同図 No.9の作意順で余詰 93桂を補った図で出題した中で「裸玉として將棋月報と王將に投稿した」
011	1952.1	詰バラ	山田修司	2 1 玉	飛2銀2桂	23手	×余詰	詰バラ 1953.1 p40	21(2) 初手24飛で余詰
012	1952.1	詰バラ	山田修司	1 2 玉	飛2銀桂	21手	◎	詰バラ 1953.1 p40	12a 途中裸玉(No.11の2手目で本図) 「No.11創作中の原案」(No.12の結果発表時) No.178で正式発表
013	1953.1	**	市川一郎	5 1 玉	飛角金3	19手	×不詰	** p 2	51(4) **將棋どちらが勝ち1番 持駒探しとして出題 No.4の金銀→金3
014	1953.6	詰バラ	奥菌幸雄	1 1 玉	飛角2桂2	41手	○	詰バラ 1953.6 p25	11a 読者サロンに発表 詰バラ1953.5発表の無仕掛図(早詰)を修正
015	1953.7	近代將棋	詰鬼人	1 2 玉	角金2銀2桂	19手	◎	近将 1953.7 p59	12c 月報1943.6有馬康晴作非裸玉作品(左右逆)に2手プラス 有馬は本図(左右逆)も1943年月報に投稿した(詰バラ1956.7)
016	1954.2	風ぐるま	谷向奇龍	1 3 玉	飛金2銀桂	15手	×変長	風ぐるま 1954.4 p44	13(2)
017	1954.4	風ぐるま	奥菌幸雄	2 3 玉	角2金2銀桂	23手	×不詰	風ぐるま 1954.6 p75	23(1) No.15に4手プラス
018	1954.10	風ぐるま	安達栄司	2 2 玉	角2金4	15手	×余詰	風ぐるま 1955.1 p83	22(2)
018a	1955.3	**	市川一郎	5 1 玉	飛角金3桂	13手	×余詰	** p 2	51(7) **將棋どちらが勝ち1番 持駒探しとして出題 No.13の修正図 余詰指摘(おもちゃ箱03.1)
019	1954.12	王將	北原義治	9 2 玉	飛2角香	19手	△	なし	12(1) 廢刊のため解発表なし
020	1955.3	詰バラ	岡田敏	5 1 玉	飛角金銀桂	21手	×余詰	なし	51(5) No.4と同図 新図発表ではなくNo.4との偶然の一致の記事
021	1955.5	詰バラ	坪井作道	9 2 玉	飛2銀桂	21手	◎	詰バラ 1955.5 p31	12a No.12と同図(左右逆)
022	1955.9	詰バラ	奥菌幸雄	2 9 玉	飛2金2銀	29手	×余詰	詰バラ 1955.9 p 3	29(1) 北原義治がコラムの中で紹介 余詰指摘(詰バラ1956.9)
023	1956.6	詰バラ	***	2 1 玉	飛金4	9手	◎	詰バラ 1956.6 p18	21c ***三枝文夫・三木正道・岸本雅美 ほぼ同時期に投稿されたと編集部が紹介
024	1956.9	詰バラ	***	3 1 玉	飛2金歩5	27手	×余詰	詰バラ 1956.9 p36	31(1) ***北原義治・谷向奇龍・渡部正裕・山田修司 図発表ではなく北原義治が「ア・ラ・カルト余談」の中で衝突事故として紹介
025	1956.10	詰バラ	武留独九	4 3 玉	飛2角金桂	35手	×余詰	詰バラ 1956.10 p 2	43(1) 武留独九作のコントの中で久五郎作として発表 9手目からNo.8の9手目からと同手順
026	1956.10	詰バラ	武留独九	2 3 玉	飛2金桂	31手	◎	詰バラ 1956.10 p 2	23a 武留独九作のコントの中で久五郎作として発表 途中裸玉(No.25の4手目で本図) No.8の81玉→23玉,歩→桂
027	1956.10	詰バラ	***	1 1 玉	飛2角2	23手	×余詰	詰バラ 1956.10 p38	11(1) ***黒坂隆身・田辺国夫 田辺がエッセーの中で余詰作と紹介 なぜかNo.60で正式出題
028	1956.12	詰バラ	松井雪山	1 1 玉	飛角2銀桂	13手	×余詰	詰バラ 1956.12 p 4	11(3) No.14の桂2→銀桂 石井藤雄が「偶感」の中で紹介 余詰指摘(詰バラ1957.4)
029	1956.12	詰バラ	鈴木幸之助	5 3 玉	飛2角金2桂	37手	×余詰	なし	53(1) No.25に2手プラス=No.26に6手プラス 鶴田主幹がコラムの中で紹介
030	1958.4	詰バラ	北川明	1 7 玉	金2銀4桂歩2	19手	×不詰	詰バラ 1958.8 p55	17(3)
031	1959.12	詰バラ	北川明	1 7 玉	金2銀4桂香2	19手	◎	詰バラ 1959.12 p 9	17b No.30の修正図 「裸玉後日談」の中で発表
032	1960.2	詰バラ	巨椋鴻之介	1 1 玉	飛角桂香歩2	29手	×余詰	詰バラ 1960.2 p45	11(6) 「裸玉大会」の中で発表 余詰情報(詰バラ1966.12)
033	1960.2	詰バラ	安東功	9 4 玉	飛2金2銀2歩	25手	×余詰	詰バラ 1960.2 p46	14(2) 「裸玉大会」の中で発表 余詰情報(詰バラ1966.12)
034	1960.2	詰バラ	菅野篤	1 9 玉	飛2角2金	35手	×余詰	詰バラ 1960.2 p46	19(1) 「裸玉大会」の中で発表 余詰情報(詰バラ1966.12) No.9の角金2→角2金(左右逆)

035		1960. 5	詰バラ	福田稔	5 2 玉	飛2角桂3	25手	×余詰	なし	52(3)	読者サロンに発表
036		1962. 6	詰バラ	板橋あさひ	2 3 玉	飛2金桂	31手	◎	詰バラ 1962. 8 p56	23a	No. 26と同図 山田修司「旧バラ (No. 26よりも前)」に投稿したが未発表」(詰バラ1962. 11)→板橋「降りる」(詰バラ1963. 1)
037		1962. 6	詰バラ	岩木錦太郎	9 9 玉	飛角2銀2香2	17手	◎	詰バラ 1962. 8 p56	19a	
038		1962. 12	詰バラ	奥菌幸雄	2 1 玉	飛角金2	35手	×不詰	なし	21(3)	坂本一裕が「古今裸玉集-蛇足-」の中で「発表誌不詳」と紹介-誤報か(詰棋界1952. 6に玉方71香ある図あり)
039		1963. 2	詰バラ	柏川悦夫	1 1 玉	角金2銀桂香歩	15手	○	詰バラ 1963. 4 p64	11c	
040		1963. 7	近代将棋	岸本雅美	2 2 玉	角2金桂3香	27手	◎	近将 1963. 9 p133	22c	
041		1963. 9	詰バラ	***	1 9 玉	飛金銀4香3	19手	○	詰バラ 1963. 9 p14	19b	***田中至、橋本守正 田中至が「偶然の一致」の中で橋本守正と同時期創作と紹介
042		1963. 10	近代将棋	柏川悦夫	1 2 玉	角2金2桂歩2	17手	◎	近将 1963. 12 p135	12b	
043		1963. 10	詰バラ	菅野篤	5 2 玉	飛2角2歩4	21手	×余詰	詰バラ 1964. 1 p50	52(2)	No. 52により余詰
044		1963. 11	詰バラ	秩父金之助	1 1 玉	飛2銀桂	15手	×不詰	詰バラ 1963. 11 p 4	11(2)	コラムの中で変長作として発表 不詰指摘(近将1958. 2)
045		1964. 3	詰バラ	橋本守正	9 9 玉	角2金3銀2歩	27手	◎	詰バラ 1964. 5 p87	19d	
046		1964. 7	近代将棋	金太郎	5 1 玉	飛2角香歩5	41手	×余詰	近将 1964. 7 p102	51(2)	金太郎作のコント「五兵爺さん」の中で五兵作として発表 余詰指摘(近将1958. 2)
047	途	1964. 7	近代将棋	金太郎	5 2 玉	飛2角香歩4	39手	×余詰	近将 1964. 7 p102		金太郎作のコント「五兵爺さん」の中で五兵作として発表 途中裸玉 (No. 46の2手目で本図) 余詰指摘(近将1958. 2)
048		1964. 10	近代将棋	***	8 2 玉	角2金3銀	15手	×余詰	近将 1964. 10 p107	22(3)	***安達栄司・岩木錦太郎 No. 18の金4→金3銀 岩木錦太郎が読者会議に安達栄司作No. 18の修正図(左右逆)として合作名で発表
049		1964. 11	王将天狗	岸本雅美	2 2 玉	角2金2香歩	15手	◎	天狗 1965. 1 p17	22a	No. 40の金桂3→金2歩 余詰指摘(王将天狗1965. 3)→作者認める(王将天狗1965. 5)→誤指摘で完全(詰バラ2000. 11)
050		1965. 9	近代将棋	岩木錦太郎	1 3 玉	飛金3桂2	21手	×変長	近将 1965. 11 p118	13(1)	
051		1965. 9	近代将棋	***	8 7 玉	金3銀4桂香	21手	◎	近将 1965. 11 p118	27d	***福田桂士・岩木錦太郎
052		1965. 9	近代将棋	阿部冷二	5 2 玉	飛2角2	41手	×余詰	近将 1965. 11 p119	52(1)	No. 43の歩4なし 終3手目からの余詰はキズとみてよい(近将1982. 12 趣向詰将棋名作選1980. 8)→終5手目から余詰(バラ1981. 6)
053		1965. 12	詰バラ	安達康二	1 8 玉	飛角金2銀3	17手	×余詰	詰バラ 1965. 12 p17	18(1)	広場に発表 余詰指摘(近将1958. 2)
054		1965. 12	詰バラ	菅野篤	3 9 玉	飛2角金2	31手	×余詰	詰バラ 1966. 3 p28	39(1)	
055		1966. 4	近代将棋	不明	2 1 玉	飛2角2	19手	×余詰	なし	21(1)	「詰むや詰ざるや?」として紹介 萩本哲夫21手解(詰バラ67. 4)→不詰情報(75. 2「裸玉総まくり」)→余詰指摘(おもちゃ箱00. 7)
056	途	1966. 4	近代将棋	不明	2 2 玉	飛角2銀	15手	×余詰	なし		「詰むや詰ざるや?」として紹介 途中裸玉 (No. 55の4手目で本図)
057		1966. 6	詰バラ	岩木錦太郎	9 5 玉	飛2金銀2桂	19手	×余詰	詰バラ 1966. 10 p45	15(1)	
058		1966. 6	詰バラ	秩父金太郎	4 1 玉	飛角金3歩	21手	×余詰	詰バラ 1966. 8 p47	41(2)	
059		1966. 7	詰バラ	花沢正純	1 3 玉	角金2銀2桂香	27手	◎	詰バラ 1966. 11 p54	13c	No. 15の12玉→13玉, 持駒香プラス
060		1966. 7	詰バラ	***	1 1 玉	飛2角2	23手	×余詰	詰バラ 1966. 11 p57	11(1)	***黒坂隆身、田辺国夫 No. 27の正式出題
061		1966. 10	詰バラ	長谷与民	2 2 玉	角2金2香歩	15手	◎	詰バラ 1966. 12 p60	22a	No. 49と同図 作者名「興民」の誤植? (興民→興民→与民) 結果発表時余詰とされたが誤指摘
062		1966. 11	詰バラ	菅野篤	2 1 玉	角2金2桂2歩3	25手	×余詰	詰バラ 1967. 2 p13	21(7)	No. 79により余詰
063		1967. 2	詰バラ	福田稔	5 2 玉	飛2角桂2	27手	×余詰	なし	52(4)	読者サロンに発表 No. 35の修正図
064		1969. 7	**	不明	1 1 玉	角2金桂香歩	23手	×余詰	** p63	11(8)	**不思議な詰将棋第3部-35番
065		1969. 7	**	山田道美	1 2 玉	飛2金	11手	×余詰	** p14	12(2)	**現代将棋の急所 No. 1の62玉→12玉 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
066		1969. 7	**	市川敏夫	5 5 玉	飛2角2桂	29手	×駒余	なし	55(1)	**現代将棋の急所 山田道美が「未完だが、かならず詰むという」と紹介 駒余り指摘(詰バラ2000. 11)
067		1970. 1	詰バラ	大村光良	1 7 玉	飛金3銀2香	31手	×余詰	詰バラ 1970. 1 p 2	17(2)	「新春雑感」の中で発表 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
068		1970. 2	近代将棋	堅山道助	3 7 玉	金4銀4桂歩	19手	×余詰	近将 1970. 3 p119	37(1)	
069		1970. 8	詰バラ	菅谷正義	1 1 玉	飛角金2歩	21手	×余詰	詰バラ 1970. 10 p62	11(4)	柏川悦夫作玉方44歩のある同作意作品(詰バラ1965. 3)あり-結果発表時44歩の必要性について話題 余詰指摘(詰バラ1975. 2)
070		1970. 10	詰バラ	新田道雄	1 2 玉	角2金2桂歩2	17手	◎	詰バラ 1970. 12 p69	12b	No. 42と同図
071		1971. 2	詰バラ	新田道雄	2 2 玉	角2金銀香歩	15手	◎	詰バラ 1971. 2 p23	22b	No. 49の金2→金銀 出題図の持駒に桂あるは誤植
072	途	1971. 4	詰バラ	歩棋元	2 1 玉	飛2金桂	31手	○	詰バラ 1971. 4 p51	21a	途中裸玉(原図飛角図式8手目で本図) No. 8の歩→桂 No. 26の2段ずらし
073		1972. 4	**	不明	1 1 玉	角金4桂		×余詰		11(12)	**関西詰将棋ファングループ会報 No. 99により余詰

074		1972. 9	詰バラ	新田道雄	2 1 玉	飛角金銀桂	21手	×余詰	詰バラ 1973. 3 p35	21(4)	No. 38の金2→金銀桂
075		1972. 9	詰バラ	新田道雄	5 1 玉	飛2角銀香	25手	×余詰	詰バラ 1973. 3 p35	51(1)	No. 46の歩5→銀 結果発表時「5玉/飛2角銀歩(本図4手目)もつぶれ」と
076		1972. 9	詰バラ	新田道雄	1 2 玉	飛角金桂歩2	23手	×余詰	詰バラ 1973. 3 p35	12(3)	余詰指摘(詰バラ1973. 6)
077		1973. 9	詰バラ	新田道雄	1 1 玉	飛金銀2桂2歩	27手	×余詰	なし	11(13)	「裸玉」の中でただ今投稿中と発表→その後発表なし 作者による略解と余詰情報(詰バラ1974. 7)
078		1974. 1	詰バラ	橋本守正	2 2 玉	角2金4	15手	×余詰	詰バラ 1974. 3 p65	22(2)	No. 18と同図
079		1974. 4	詰バラ	浜辺義明	2 1 玉	角2金2桂2	19手	△	詰バラ 1974. 6 p69	21(6)	No. 62の歩3なし
080		1974. 7	詰バラ	新田道雄	5 1 玉	飛2金桂歩	21手	×余詰	詰バラ 1974. 7 p24	51(3)	「裸玉 2」の中で浜辺義明の研究で詰んだと発表→余詰指摘(詰バラ2000. 11) 初出:「裸玉」の中で研究中と発表(詰バラ1973. 9)
081		1975. 2	詰バラ	新田道雄	1 5 玉	飛2銀3桂香歩	23手	×余詰	なし	15(2)	21手目より詰手順多いため参考作品として発表 13手目より余詰(詰バラ2000. 11)
082		1975. 2	詰バラ	新田道雄	1 3 玉	角金3桂	15手	△	詰バラ 1975. 6 p38	13(4)	新田道雄「山本善章が先に詰バラに投稿したが、変長で返されたとのこと」
083		1975. 2	詰バラ	新田道雄	1 3 玉	角金3銀3	23手	◎	詰バラ 1975. 6 p38	13b	No. 82の桂→銀3
084		1975. 2	詰バラ	新田道雄	1 4 玉	角2金4桂	25手	×余詰	詰バラ 1975. 6 p39	14(4)	余詰指摘(詰バラ1987. 12)
085		1975. 2	詰バラ	新田道雄	1 4 玉	飛金3銀桂2歩3	33手	×余詰	詰バラ 1975. 6 p40	14(3)	
086		1975. 5	詰バラ	三木宗太	1 3 玉	飛金2銀桂	17手	×変長	詰バラ 1975. 5 p29	13(2)	No. 16と同図(別作意) 読者サロンに余詰作として発表
087		1975. 11	詰バラ	川口泰英	9 3 玉	飛金銀2桂3歩	17手	×余詰	詰バラ 1976. 2 p77	13(3)	
088	途	1977. 2	詰バラ	北川明	1 5 玉	飛金2銀3桂	17手	◎	詰バラ 1977. 6 p33	15a	途中裸玉(原図4手目で本図)
089		1978. 5	詰バラ	山本善章	4 1 玉	飛角金銀3歩2	23手	×余詰	詰バラ 1978. 9 p85	41(3)	No. 58の金3歩→金銀3歩2
090		1978. 10	詰バラ	塚本勝男	4 2 玉	飛2銀桂香2歩	27手	×余詰	詰バラ 1979. 1 p81	42(3)	
091		1979. 1	詰バラ	三輪勝明	4 2 玉	飛2銀桂香2	29手	×余詰	なし	42(2)	No. 90の余詰指摘と同時に修正図として発表 余詰指摘(詰バラ2000. 2)
092		1979. 3	詰研会報	森敏宏	5 1 玉	飛角2金2	23手	×余詰	詰研 1979. 4 p 2	51(6)	No. 13の角金3桂→角2金2
093		1979. 4	詰研会報	原敏彦	1 5 玉	飛角金3桂歩2	17手	×余詰	詰研 1979. 5 p 2	15(4)	
094		1979. 4	詰研会報	原敏彦	1 9 玉	飛角2銀2香2	17手	◎	詰研 1979. 5 p 2	19a	No. 37と同図(左右逆)
095		1979. 4	詰研会報	原敏彦	1 8 玉	角金4銀4歩5	35手	×余詰	詰研 1979. 5 p 2	18(8)	有吉弘敏「角金4銀3歩で不完全(だが詰む)」(詰将棋の詩1983. 3)
096		1979. 4	詰研会報	原敏彦	2 8 玉	飛角2金銀	29手	×不詰	詰研 1979. 5 p 2	28(1)	不詰指摘( )
097	途	1979. 4	詰研会報	原敏彦	2 8 玉	飛2金銀桂	21手	×不詰	詰研 1979. 5 p 2		途中裸玉(No. 96の8手目で本図)
098		1979. 11	詰バラ	新藤孝敏	1 6 玉	飛金4桂香	13手	×余詰	詰バラ 1980. 2 p63	16(3)	
099	途	1980. 3	詰将棋の詩	服部敦	1 1 玉	角金3桂	9手	△	詩 1980. 5 p 3	11(10)	途中裸玉(原図6手目で本図) No. 73の金4→金3 No. 115で小沢正広が公式発表
100		1981. 11	近代将棋	小沢正広	2 2 玉	角金2銀3歩4	33手	◎	近将 1981. 12 p155	22e	
101		1982. 1	詰バラ	藤本和	2 7 玉	金4銀3桂	17手	○	詰バラ 1982. 3 p84	27c	No. 51の金3銀4香→金4銀3(左右逆)
102		1982. 1	詰バラ	小沢正広	4 1 玉	飛2銀香3	33手	×余詰	詰バラ 1982. 1 p41	41(1)	読者サロンに発表 No. 91に4手プラス 余詰指摘(詰バラ2000. 8)
103		1982. 2	詰バラ	小沢正広	1 6 玉	飛金4銀2	27手	×余詰	詰バラ 1982. 5 p32	16(2)	No. 98の桂香→銀2
104		1982. 4	詰研会報	有吉弘敏	1 1 玉	角2銀桂4香2	35手	×余詰	なし	11(14)	角2銀桂3香2で詰あり( )
105		1982. 4	詰研会報	利波偉	2 1 玉	飛金3桂香歩	17手	×余詰	なし	21(9)	余詰指摘(詰研会報1982. 5)
106		1982. 4	詰研会報	護堂浩之	3 1 玉	角金2銀4歩	23手	×余詰	なし	31(4)	余詰指摘(詰研会報1982. 5) No. 111で公式発表
107		1982. 8	詰研会報	小沢正広	1 1 玉	角2銀2桂香歩	33手	×余詰	詰研 1982. 9 p 2	11(9)	No. 116で公式発表 有吉弘敏「1978～79ころ詰バラに投稿したが不完全として返された」(詰将棋の詩1983. 3)
108		1982. 8*	徳島新聞	小沢正広	1 1 玉	角金3桂	9手	△	徳島 1982. 8. 31	11(10)	*1982. 8. 30 No. 99と同図(別作意)
109		1982. 10	詰バラ	小沢正広	1 6 玉	飛角金2銀桂	17手	×不詰	詰バラ 1982. 12 p86	16(1)	
110		1982. 11	詰バラ	小沢正広	4 1 玉	飛角金銀香3歩	27手	×余詰	詰バラ 1983. 1 p69	41(4)	No. 89の銀3歩2→銀香3歩
111		1982. 11	近代将棋	護堂浩之	3 1 玉	角金2銀4歩	23手	×余詰	近将 1982. 12 p152	31(4)	初出: No. 106(この結果発表時作者が余詰としているので近将出題は何らかの手違いか) 余詰指摘(近代将棋1983. 1)
112		1982. 11	近代将棋	堅山道助	1 3 玉	角金3銀3	23手	◎	近将 1982. 12 p154	13b	No. 83と同図

113		1982. 12	詰バラ	原田清実	1 9 玉	飛2金3銀2	13手	×余詰	なし	19(2)	読者サロンに発表 3手目17飛だと歩余る(作意不明)
114		1983. 2	詰バラ	小沢正広	1 1 玉	角金4歩2	23手	○	なし	11b	図発表ではなく「裸玉1一玉全局リスト」の中で準完全作かと 「裸玉総まくり」(詰バラ1975. 2)の不完全作(未発表)リストにある
115		1983. 2	詰バラ	服部教	1 1 玉	角金3桂	9手	△	なし	11(10)	初出: No. 99 小沢正広が「裸玉あれこれ」の中で紹介
116		1983. 2	詰バラ	小沢正広	1 1 玉	角2銀2桂香歩	33手	×余詰	なし	11(9)	初出: No. 107 「裸玉あれこれ」の中で発表
117		1983. 2	詰研会報	***	3 1 玉	角金3銀2歩4	33手	×余詰	なし	31(5)	***護堂浩之・花沢正純(出題時護堂単独、結果発表時合作と) 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
118		1983. 3	詰研会報	堅山道助	1 2 玉	角金4銀	23手	×余詰	詰研 1983. 4 p 3	12(4)	
119		1983. 3	詰研会報	小沢正広	1 5 玉	金3銀4桂3香2歩	37手	×余詰	詰研 1983. 4 p 3	15(5)	
120	途	1983. 3	詰研会報	小沢正広	1 6 玉	金3銀3桂3香2歩	35手	×余詰	詰研 1983. 4 p 3		途中裸玉(No. 119の2手目で本図)
121		1983. 4	近代将棋	***	3 3 玉	飛金4銀桂2	33手	×余詰	近将 1983. 5 p153	33(1)	***花沢正純・護堂浩之
122		1983. 4	詰バラ	***	3 1 玉	角金4銀歩4	33手	×余詰	詰バラ 1983. 7 p51	31(3)	***花沢正純・護堂浩之 No. 117の金3銀2→金4銀(No. 117と同作意)
123		1983. 4	詰研会報	小沢正広	2 7 玉	角金3銀2桂	19手	×余詰	詰研 1983. 5 p 2	27(1)	No. 143で公式発表
124		1983. 5	詰研会報	小沢正広	1 7 玉	金3銀3桂	13手	◎	詰研 1983. 6 p 2	17a	No. 142で公式発表
125		1983. 5	詰研会報	小沢正広	1 7 玉	角金2銀2桂2歩	21手	◎	詰研 1983. 6 p 2	17d	作意(25手)誤設定で変別解 No. 206で伊藤和雄が21手完全作として公式発表
126		1983. 8	詰バラ	小沢正広	1 4 玉	飛2角金銀	17手	×余詰	詰バラ 1983. 11 p59	14(1)	
127		1984. 1	詰研会報	小沢正広	2 1 玉	角金3銀桂歩	23手	×余詰	なし	21(8)	No. 136で公式発表 「裸玉総まくり」(詰バラ1975. 2)の不完全作(未発表)リストにある
128		1984. 4	近代将棋	小田聡二	1 7 玉	飛金4銀歩	31手	×余詰	近将 1984. 5 p157	17(1)	No. 67の金3銀2香→金4銀歩 「裸玉総まくり」(詰バラ1975. 2)の不完全作(未発表)リストにある
129		1984. 6	詰棋めいと	竹中健一	5 1 玉	飛角金銀桂	21手	×余詰	なし	51(5)	No. 4と同図 新図発表ではなくNo. 4, 20との偶然の一致の記事
130		1984. 8	詰研会報	岡村孝雄	3 1 玉	角2金銀2香歩	17手	◎	詰研 1984. 9 p 2	31b	No. 160で公式発表 No. 71に2手プラス
131		1984. 8	詰研会報	岡村孝雄	2 3 玉	角2金2銀桂歩	21手	×余詰	詰研 1984. 9 p 2	23(2)	No. 17に歩プラス
132		1984. 8	詰研会報	岡村孝雄	3 4 玉	飛2角金銀	17手	×余詰	なし	34(1)	No. 126の修正案としてつめけんぶらぎに発表 余詰指摘(詰研会報1984. 9)
133		1984. 9	詰研会報	山下雅博	1 7 玉	金4銀2桂	13手	×余詰	詰研 1984. 10 p 3	17(4)	No. 124の金3銀3→金4銀2 小沢正広がNo. 124の結果発表時にこの図に触れキズ(変同・非限定)がひどくなる
134		1984. 11	近代将棋	小沢正広	3 1 玉	飛2銀桂歩4	47手	◎	近将 1984. 12 p157	31a	
135		1984. 11	詰バラ	佐藤達也	2 2 玉	角2金4	15手	×余詰	詰バラ 1984. 11 p63	22(2)	No. 18と同図 完全/不完全, 新作/既発表作を問う形で発表→既発表と余詰指摘(詰バラ1985. 2)
136		1985. 2	詰バラ	小沢正広	2 1 玉	角金3銀桂歩	23手	×余詰	詰バラ 1985. 5 p83	21(8)	初出: No. 127
137		1985. 2	詰バラ	松尾弥昇	4 1 玉	飛角金銀香2歩2		不詰?	なし	41(5)	No. 110の修正案として読者サロンに発表
138		1985. 5	詰研会報	小沢正広	3 2 玉	飛角2金香	23手	△	詰研 1985. 6 p 2	32(1)	No. 144で公式発表 13手目からNo. 19の9手目からと同手順(左右逆、一列ずれ)
139		1985. 7	詰バラ	渡辺文雄	9 9 玉	飛2角金2	15手	×余詰	詰バラ 1985. 9 p72	19(3)	No. 9と同図
140		1985. 10	詰研会報	新田道雄	1 7 玉	飛金4桂2歩3	33手	×余詰	詰研 1985. 11 p 4	17(5)	No. 128の銀歩→桂2歩3
141		1985. 11	詰研会報	小沢正広	1 7 玉	飛金4桂3歩	31手	×余詰	詰研 1985. 11 p 4	17(6)	No. 140の結果発表時に修正案として発表 余詰指摘(おもちゃ箱)
142		1986. 2	詰バラ	小沢正広	1 7 玉	金3銀3桂	13手	◎	詰バラ 1986. 6 p54	17a	初出: No. 124
143		1986. 2	詰バラ	小沢正広	2 7 玉	角金3銀2桂	19手	×余詰	詰バラ 1986. 6 p55	27(1)	初出: No. 123
144		1986. 2	詰バラ	小沢正広	3 2 玉	飛角2金香	23手	△	詰バラ 1986. 6 p55	32(1)	初出: No. 138
145		1986. 2	詰バラ	小沢正広	2 1 玉	角金3桂香歩	31手	○	詰バラ 1986. 6 p56	21d	No. 136の銀→香
146		1986. 4	詰棋めいと	新田道雄	3 7 玉	金4銀3桂3歩3	27手	×余詰	めいと 1986. 10 p90	37(2)	金4銀3桂3歩2で詰あり(詰バラ1988. 9「七段目小駒裸玉全局リスト」)
147		1986. 4	詰棋めいと	新田道雄	2 2 玉	飛金銀4桂2歩2	31手	×余詰	めいと 1986. 10 p90	22(1)	
148		1986. 8	詰バラ	山腰雅人	1 1 玉	角金2銀2香	17手	×余詰	詰バラ 1986. 8 p43	11(11)	読者サロンに発表 No. 39の銀桂歩→銀2 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
149		1986. 8	詰バラ	山腰雅人	1 6 玉	金4銀2桂2香	17手	×余詰	詰バラ 1986. 8 p43	16(4)	読者サロンに発表 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
150		1986. 8	詰バラ	山腰雅人	1 2 玉	飛角金桂歩2	23手	×余詰	詰バラ 1986. 8 p43	12(3)	読者サロンに発表 No. 76と同図
151		1986. 9	詰バラ	小沢正広	3 1 玉	飛金2銀桂2歩2	31手	×余詰	詰バラ 1986. 9 p28	31(6)	読者サロンに発表 余詰指摘(詰バラ2000. 11)

152	1986. 9	詰研究会報	小沢正広	2 1 玉	角2金4	27手	×余詰	詰研 1986. 9 p11	21(10)	完全/不完全を問う形で発表 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
153	1986. 9	詰研究会報	小沢正広	2 1 玉	角金4銀2	25手	×余詰	詰研 1986. 9 p11	21(11)	「No. 152とほぼ同手順」 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
154	1986. 9	詰研究会報	小沢正広	2 1 玉	角金3銀3	25手	×余詰	詰研 1986. 9 p11	21(12)	No. 153の金4銀2→金3銀3 「No. 152とほぼ同手順」 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
155	1987. 5	詰バラ	小沢正広	2 1 玉	飛金3桂歩8	45手	×余詰	詰バラ 1987. 8 p35	21(5)	No. 105の香歩→歩8
156	1987. 11	詰棋めいと	坂東仁市	1 8 玉	金4銀4桂歩	19手	×余詰	めいと 1987. 11 p43	18(5)	めいとびあに発表「No. 146解図中に発見」 No. 165により余詰
157	途	詰棋めいと	坂東仁市	2 7 玉	金4銀3桂歩	17手	×余詰	めいと 1987. 11 p43		めいとびあに発表「No. 146解図中に発見」 途中裸玉(No. 156の2手目で本図) No. 101により余詰
158	1987. 12	詰バラ	小沢正広	1 9 玉	角2金3銀2桂	23手	◎	詰バラ 1987. 12 p31	19c	読者サロンに発表 No. 45の歩→桂(左右逆, 手順もほぼ同じ)
159	1988. 3	詰バラ	小沢正広	3 7 玉	金3銀4桂香4	29手	×余詰	詰バラ 1988. 6 p73	37(4)	余詰指摘(おもちゃ箱2004. 5)
160	1988. 4	詰バラ	岡村孝雄	3 1 玉	角2金銀2香歩	17手	◎	詰バラ 1988. 7 p56	31b	初出: No. 130 No. 71に2手プラス
161	1988. 5	詰バラ	車田康明	5 5 玉	飛2角2桂	27手	×余詰	なし	55(1)	No. 66と同図(別作意) 図発表ではなく個展の結果発表の中で非裸玉作品の原案として発表→作意発表(詰研究会報1989. 2)
162	1988. 5	詰バラ	小沢正広	5 6 玉	金4銀4桂香	31手	×余詰	詰バラ 1988. 7 p90	56(1)	
163	途	詰バラ	小沢正広	5 7 玉	金4銀3桂香	29手	×余詰	詰バラ 1988. 7 p90	57(1)	途中裸玉(No. 162の2手目で本図)
164	1988. 6	詰バラ	小沢正広	3 7 玉	金3銀4桂香3歩2	27手	×余詰	なし	37(3)	No. 159の結果発表時No. 159の香4→香3歩2でも成立と 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
165	1988. 9	詰バラ	小沢正広	1 8 玉	金4銀4桂	19手	○	なし	18e	No. 101に2手プラス 図発表ではなく「七段目小駒裸玉全局リスト」のNo. 101の中で「～も成立」として
166	1988. 9	詰バラ	小沢正広	2 6 玉	金4銀4桂	19手	○	なし	26a	No. 101に2手プラス 図発表ではなく「七段目小駒裸玉全局リスト」のNo. 101の中で「～も成立」として
167	1988. 9	詰バラ	小沢正広	1 7 玉	金2銀4桂香歩	19手	○	なし	17c	No. 31の香2→香歩 図発表ではなく「七段目小駒裸玉全局リスト」の中でNo. 31の類作として
168	1988. 9	詰棋めいと	真鍋浩	1 8 玉	金4銀4桂	19手	○	なし	18e	No. 165と同図 図発表ではなくNo. 156の歩不要の指摘「変同が多くて不完全に近い」
169	1989. 1	詰研究会報	駒場和男	5 5 玉	飛2角2桂		×余詰	なし	55(1)	No. 66と同図 No. 161の車田康明が作意27手余詰作と指摘(詰研究会報1989. 2)
170	1989. 6	**	新田道雄	2 9 玉	飛2金銀2香4	27手	×余詰	** 1989. 8 p 3	29(2)	**詰恋会会報 No. 171で公式発表 13手目よりNo. 41の5手目からと同手順
171	1990. 3	詰棋めいと	新田道雄	2 9 玉	飛2金銀2香4	27手	×余詰	めいと 1990. 11 p128	29(2)	初出: No. 170
172	1990. 6	詰バラ	山腰雅人	2 1 玉	角金2銀3香	35手	×余詰	詰バラ 1990. 6 p63	21(13)	No. 154の金3→金2香 読者サロンに「キズ多い故参考図が適当」と発表 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
173	1990. 8	詰バラ	山腰雅人	1 5 玉	飛2金3香歩2	23手	×余詰	詰バラ 1990. 8 p43	15(6)	読者サロンに発表 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
174	1990. 8	詰バラ	山腰雅人	1 4 玉	飛2金銀2桂	25手	×余詰	詰バラ 1990. 8 p43	14(5)	読者サロンに発表 No. 57の一段ずらし(左右逆) 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
175	1990. 9	詰バラ	山腰雅人	1 6 玉	飛2金4	27手	×余詰	詰バラ 1990. 9 p63	16(5)	読者サロンに発表 No. 103の飛銀2→飛2 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 2)
176	1997. 10	G P W' 97	小山謙二	1 8 玉	金4銀4桂	19手	○		18e	**G P W (Game Programming Workshop) No. 165と同図
177	1997. 10	G P W' 97	小山謙二	1 8 玉	角2金3銀3歩	29手	×余詰		18(4)	**G P W (Game Programming Workshop) No. 45に2手プラス(左右逆) No. 184で公式発表 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
178	1998. 3	夢の華	山田修司	1 2 玉	飛2銀桂	21手	◎	夢の華 p104	12a	No. 12と同図 No. 11の修正図として正式発表
179	1998. 11	詰バラ	牧野隆一	1 3 玉	飛角金桂香歩	21手	◎	詰バラ 1999. 2 p67	13a	題名「大河」
180	1998. 11	詰バラ	濱田博	1 5 玉	飛金2銀桂3香	21手	×不詰	詰バラ 1999. 2 p68	15(3)	
181	1999. 1	詰研究会報	鈴木芳己	1 1 玉	角2金3銀2歩		×余詰	なし	11(15)	角2金3銀でも角2金3歩でも詰あり(詰バラ1983. 3「裸玉1一玉全局リスト」)
182	1999. 1	詰研究会報	鈴木芳己	1 4 玉	飛2角金銀2香		×余詰	なし	14(6)	No. 126により余詰
183	1999. 6	将棋世界	坂田真保	8 2 玉	角2金銀香歩	15手	◎	世界 1999. 7 p188	22b	No. 71と同図(左右逆)
184	1999. 7	将棋世界	小山謙二	1 8 玉	角2金3銀3歩	29手	×余詰	なし	18(4)	初出: No. 177 図発表ではなくコンピューターを使って創作という記事
185	1999. 9	**	小山謙二	1 8 玉	角金2銀4桂香	31手	◎	** p72	18d	**コンピュータ将棋協会誌Vol. 12 No. 198で公式発表
186	途	**	小山謙二	2 7 玉	角金2銀3桂香	29手	◎	** p72	27b	**コンピュータ将棋協会誌Vol. 12 途中裸玉(No. 185の2手目で本図) No. 199で公式発表
187	1999. 9	**	小山謙二	1 8 玉	角金2銀4桂2歩2	37手	×余詰	** p72	18(9)	**コンピュータ将棋協会誌Vol. 12 No. 185の桂香→桂2歩2 余詰情報(コンピュータ将棋の進歩3 2000. 5)
188	途	**	小山謙二	2 7 玉	角金2銀3桂2歩2	35手	×余詰	** p72		**コンピュータ将棋協会誌Vol. 12 途中裸玉(No. 187の2手目で本図) 余詰情報(コンピュータ将棋の進歩3 2000. 5)
189	1999. 11	詰バラ	増田直樹	2 2 玉	角金2銀2桂2	23手	△	詰バラ 2000. 3 p98	22(4)	No. 100の銀3歩4→銀2桂2
190	2000. 5	**	小山謙二	1 8 玉	角2金銀4桂3歩	35手	○	** p104	18c	**コンピュータ将棋の進歩3 No. 200で公式発表

191	途	2000. 5	**	小山謙二	2 7 玉	角2金銀3桂3歩	33手	○	**	p104	27a	**コンピュータ将棋の進歩3 途中裸玉(No. 190の2手目で本図) No. 201で公式発表
192		2000. 5	**	小山謙二	1 8 玉	飛角2銀3香2	19手	×余詰	**	p106	18(7)	**コンピュータ将棋の進歩3 No. 37に2手プラス(左右逆) 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 1)
193		2000. 5	**	小山謙二	1 8 玉	飛金3銀2香3	27手	×余詰	**	p107	18(2)	**コンピュータ将棋の進歩3 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 1)
194		2000. 5	**	小山謙二	1 8 玉	飛金2銀3香3	27手	×余詰	**	p108	18(3)	**コンピュータ将棋の進歩3 No. 193の金3銀2→金2銀3(手順も3手目金銀の違いだけ) 余詰指摘(おもちゃ箱2002. 1)
195		2000. 6	詰バラ	増田直樹	2 2 玉	角金2銀3桂	23手	○	詰バラ	2000. 6 p46	22d	No. 100の歩4→桂 No. 189の銀2桂2→銀3桂
196		2000. 6	詰バラ	増田直樹	1 8 玉	飛角金銀4	23手	○	詰バラ	2000. 6 p46	18b	No. 53の金2銀3→金銀4 「コンピュータ将棋の進歩3(2000. 5)によると3手目から余詰だが手順不明」(おもちゃ箱)
197	途	2000. 6	詰バラ	増田直樹	1 9 玉	飛角金銀3	21手	○	詰バラ	2000. 6 p46		途中裸玉(No. 196の2手目で本図)
198		2000. 6	詰バラ	小山謙二	1 8 玉	角金2銀4桂香	31手	◎	詰バラ	2000. 6 p46	18d	初出: No. 185
199	途	2000. 6	詰バラ	小山謙二	2 7 玉	角金2銀3桂香	29手	◎	詰バラ	2000. 6 p46	27b	途中裸玉(No. 198の2手目で本図) 初出: No. 186
200		2000. 6	詰バラ	小山謙二	1 8 玉	角2金銀4桂3歩	35手	○	詰バラ	2000. 6 p46	18c	初出: No. 190
201	途	2000. 6	詰バラ	小山謙二	2 7 玉	角2金銀3桂3歩	33手	○	詰バラ	2000. 6 p46	27a	途中裸玉(No. 200の2手目で本図) 初出: No. 191
202		2000. 8	詰バラ	加藤徹	1 1 玉	角金銀4桂3歩2	35手	◎	詰バラ	2000. 11 p77	11e	
203		2000. 10	詰バラ	広瀬一夫	2 7 玉	角2金3桂歩5	31手	×余詰	詰バラ	2000. 10 p45	27(2)	読者サロンに発表 余詰指摘(詰バラ2000. 11)
204		2000. 11	詰バラ	高木秀夫	3 9 玉	角2金4銀2	25手	○	詰バラ	2001. 2 p71	39a	
205		2000. 11	詰バラ	加藤徹	1 1 玉	角金銀4桂4歩	35手	◎	なし		11d	No. 202の桂3歩2→桂4歩 図発表ではなく「裸玉の検証 まだあった1一玉」の中で
206		2001. 3	詰バラ	伊藤和雄	1 7 玉	角金2銀2桂2歩	21手	◎	詰バラ	2001. 6 p63	17d	No. 125と同図
207		2001. 5	詰棋めいと	北村憲一	6 2 玉	飛金4銀3	17手	×駒余	めいと	2001. 5 p67	42(4)	裸玉作品の発表ではなく、No. 3の原図の初手よりの余詰順4手目に現れる途中裸玉が詰む(駒余り)という発表
208		2001. 11	詰バラ	岡村孝雄	1 1 玉	角2銀3桂歩5	33手	◎	詰バラ	2001. 12 p76	11f	
209		2001. 11	詰バラ	岡村孝雄	1 9 玉	角2金2銀3桂2歩	25手	◎	詰バラ	2001. 12 p76	19e	No. 125に4手プラス
210	途	2001. 11	詰バラ	岡村孝雄	2 8 玉	角2金2銀2桂2歩	23手	◎	詰バラ	2001. 12 p76		途中裸玉(No. 209の2手目で本図) = No. 125に2手プラス
211		2001. 11	詰バラ	岡村孝雄	1 8 玉	飛角2銀2桂香	39手	×余詰	詰バラ	2001. 12 p77	18(6)	No. 192の銀3香2→銀2桂香
212	途	2001. 11	詰バラ	岡村孝雄	2 7 玉	飛角2銀桂香	37手	×余詰	詰バラ	2001. 12 p77		途中裸玉(No. 211の2手目で本図)
213		2002. 2	**	相馬康幸	1 4 玉	角金3銀4	33手	○	**		14a	**詰将棋マニアックス
214		2002. 2	**	相馬康幸	2 1 玉	飛金2銀2香歩	23手	×余詰	**		21(14)	**詰将棋マニアックス 余詰指摘(おもちゃ箱2003. 11)
215		2002. 2	**	塚本恵一	1 6 玉	飛金4桂歩	15手	○	おもちゃ箱		16a	**詰将棋マニアックス No. 98の香→歩 「裸玉総まくり」(詰バラ1975. 2)の不完全作(未発表)リストにある
216		2002. 3	おもちゃ箱	桑田倫彦	1 9 玉	角2金3銀2香	21手	◎	おもちゃ箱		19f	No. 45の歩→香(左右逆), No. 158の桂→香
217		2002. 3	おもちゃ箱	岡村孝雄	1 8 玉	角2金3銀2香2	23手	◎	おもちゃ箱		18f	No. 216に2手プラス No. 184の銀3歩→銀2香2 「コンピュータ将棋の進歩3」(2000. 5)では余詰-誤報
218		2002. 11	詰バラ	岡村孝雄	2 4 玉	角2金2銀桂香	31手	◎	詰バラ	2002. 12 p94	24a	5手目でNo. 59の1手目になる
219		2002. 11	詰バラ	岡村孝雄	4 2 玉	角金2銀4桂歩3	33手	◎	詰バラ	2002. 12 p94	42a	
220		2002. 11	詰バラ	岡村孝雄	3 2 玉	角金3銀2歩9	41手	◎	詰バラ	2002. 12 p95	32a	
221		2002. 11	詰バラ	岡村孝雄	1 8 玉	角金3銀2桂4香歩5	45手	◎	詰バラ	2002. 12 p96	18g	
222	途	2002. 11	詰バラ	岡村孝雄	2 7 玉	角金3銀桂4香歩5	43手	◎	詰バラ	2002. 12 p96		途中裸玉(No. 221の2手目で本図)
223		2003. 2	おもちゃ箱	岡村孝雄	2 9 玉	角金3銀3桂4香歩5	47手	◎	おもちゃ箱	2003. 5	29a	No. 221に2手プラス
224		2003. 3	近代将棋	平井正敏	3 1 玉	飛金4香2	19手	×余詰	近将	2003. 4 p132	31(7)	裸玉作品の発表ではなく、発表図の44桂がないと余詰ありという記事
225		2003. 4	**	相馬康幸	9 4 玉	飛金4桂2歩3	23手	◎	**		14b	**詰将棋マニアックス
226		2003. 4	**	相馬康幸	1 5 玉	飛金2銀桂2香2	17手	○	**		15b	**詰将棋マニアックス
227		2003. 4	**	相馬康幸	1 5 玉	飛金2銀桂2香歩	17手	○	**		15b	**詰将棋マニアックス No. 226の香2→香歩
228		2003. 11	詰バラ	岡村孝雄	4 2 玉	角金4銀2歩9	55手	◎	詰バラ	2004. 2 p85	42b	題名「驚愕の曠野」
229		2003. 11	詰バラ	村田登亀雄	2 1 玉	飛金2銀2香歩	23手	×余詰	詰バラ	2003. 11 p43	21(14)	No. 214と同図

230		2003. 11	詰バラ	岡村孝雄	3 8 玉	金4銀4桂香歩3	35手	○	詰バラ 2003. 11 p43	38a	
231	途	2003. 11	詰バラ	岡村孝雄	4 7 玉	金4銀3桂香歩3	33手	○	詰バラ 2003. 11 p43		途中裸玉(No. 230の2手目で本図)
232		2004. 4	詰バラ	岡村孝雄	5 1 玉	角金4銀2歩9	59手	◎	詰バラ 2004. 4 p36	51a	題名「驚愕の曠野」 No. 228に4手プラス 「記録に挑戦! 一長手数の記録」の中で発表
233		2005. 7	近代将棋	村尾誠	1 1 玉	飛金銀2桂2歩	27手	×余詰	近将 2005. 7 p120	11(13)	No. 77と同図
234		2006. 6	**	駒場和男	9 9 玉	飛角金2銀香2歩	31手	×余詰	** p340	19(4)	**ゆめまぼろし百番91番 題名「楊貴妃」 余詰指摘(おもちゃ箱2006. 9)
235		2006. 9	詰バラ	伊藤和雄	2 6 玉	角2金2銀2桂2歩	23手	×余詰	なし	26(1)	読者サロンに発表 No. 206(=No. 125)に2手プラス 余詰指摘(詰バラ2006. 10)
236		2008. 4	詰バラ	村井秀行	4 1 玉	飛金銀2桂4	25手	◎	詰バラ 2008. 4 p46	41a	読者サロンに発表
237		2010. 3	詰バラ	森美憲	1 9 玉	角2金3銀2香	21手	◎	詰バラ 2010. 3 p42	19f	読者サロンに発表 No. 216と同図 「1998年以前に棋友に配布済み」 衝突作として発表
238		2010. 4	詰バラ	村井秀行	4 3 玉	角金4銀3桂	35手	△	詰バラ 2010. 4 p50	43(2)	読者サロンに発表
239		2011. 4	詰バラ	村井秀行	1 1 玉	角2金桂3歩4	37手	◎	詰バラ 2011. 4 p48	11g	読者サロンに発表
240	途	2013. 1	おもちゃ箱	左馬	5 1 玉	角金4銀2歩9	59手	◎	おもちゃ箱	51a	途中裸玉(原図2手目で本図) 原図はNo. 232に2手プラスした図で、掲示板に「角一色の最長記録」 作として発表
241		2013. 8	詰バラ	摩利支天	8 4 玉	飛2銀4桂2	29手	×余詰	詰バラ 2013. 11 p92	24(1)	
242		2013. 11	**	hse98156	1 1 玉	飛角金銀	17手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 2の金2→角金 No. 243により余詰
243		2013. 11	**	hse98156	9 1 玉	飛角金銀	17手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 242と同図(左右逆)で別手順?! No. 242により余詰
244		2013. 11	**	hse98156	9 9 玉	飛2角金2銀	15手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 9に銀プラス
245		2013. 11	**	hse98156	5 5 玉	飛2角2金4銀4香4歩	37手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 66の桂→金4銀4香4歩
246	途	2013. 11	**	hse98156	6 6 玉	飛2角金4銀4香4歩	35手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 245の2手目で本図)
247	途	2013. 11	**	hse98156	7 7 玉	飛2金4銀4香4歩	33手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 245の4手目で本図)
248		2013. 12	**	hse98156	5 1 玉	飛角金2銀桂	15手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 18aの金3→金2銀
249		2013. 12	**	hse98156	5 9 玉	飛2角2金4	23手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」
250		2013. 12	**	hse98156	9 5 玉	飛2角金銀桂2	17手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」
251		2014. 8	**	hse98156	3 3 玉	飛2角2金2銀2	21手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 255により余詰
252		2014. 8	**	hse98156	3 7 玉	飛2角2金2銀2	29手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 256により余詰
253	途	2014. 8	**	hse98156	2 6 玉	飛2角金2銀2	27手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 252の2手目で本図)
254	途	2014. 8	**	hse98156	1 7 玉	飛2金2銀2	25手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 252の4手目で本図)
255		2014. 8	**	hse98156	7 3 玉	飛2角2金2銀2	19手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 251と同図(左右逆)で別手順?! No. 251により余詰
256		2014. 8	**	hse98156	7 7 玉	飛2角2金2銀2	19手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 No. 252と同図(左右逆)で別手順?! No. 252により余詰
257	途	2014. 8	**	hse98156	8 8 玉	飛2角金2銀2	17手	×余詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 256の2手目で本図)
258	途	2014. 8	**	hse98156	9 9 玉	飛2金2銀2	15手	×不詰	**		**ブログ「haru日記」 途中裸玉(No. 256の4手目で本図) No. 113の金3→金2
259		2017. 9	**	桃燈	5 9 玉	角金3銀4香2歩2	41手	◎	** 2017. 10	59a	**ブログ「日記的空間」
260	途	2017. 9	**	桃燈	4 8 玉	角金3銀3香2歩2	39手	◎	** 2017. 10	59a	**ブログ「日記的空間」 途中裸玉(原図2手目で本図)
261		2017. 10	**	桃燈・鬼灯	4 7 玉	角金3銀3香2歩3	41手		** 2017. 10		**ブログ「日記的空間」 2手目でNo. 260と同図
262		2017. 10	**	桃燈・鬼灯	4 6 玉	角金3銀3香2歩4	43手		** 2017. 10		**ブログ「日記的空間」 2手目でNo. 261と、4手目でNo. 260と同図
263		2017. 10	**	桃燈・鬼灯	4 9 玉	角金4銀3香2歩2	41手		** 2017. 10		**ブログ「日記的空間」 2手目でNo. 260と同図
264		2017. 10	**	桃燈・鬼灯	3 9 玉	角金3銀4香2歩2	41手		** 2017. 10		**ブログ「日記的空間」 2手目でNo. 260と同図
265		2017. 10	**	桃燈・鬼灯	3 9 玉	角2金3銀2香2歩2	43手		** 2017. 10		**ブログ「日記的空間」 4手目でNo. 260と同図
266		2019. 3	**	Okara	1 8 玉	角2金3銀2歩2	29手		**		**スマホ詰バラ No. 045に2手プラス(左右逆) No. 217の香2→歩2